

A group of people, mostly men, are rowing a boat on a body of blue water. They are wearing blue shirts and are captured in a synchronized rowing motion. The boat is white with a red stripe and has some Japanese text and a logo on its side. The water is bright blue with some white foam from the oars.

# 日本のコモンズ 海編 (2)

テキスト: 家中茂 石垣島白保のイノー  
『コモンズの社会学』より

## (テ) 石垣島白保のイノー

- 石垣島白保では、コモンズは単に資源管理システムの一形態としてだけ理解することはできない。住民個々の生活のなかで蓄積された経験を「住民の総意」としてまとめ上げるなかで、海の資源がコモンズとして考えられるようになった。漁業権として制度かされるような、ムラの取り決めにもとづく厳格な資源管理システムではなかった。

# (テ) 住民による海の利用

- 日常的な海の利用

副次的なもので、生計の基盤ではない  
とりきめはなく、漁業権としても認められて  
いない P.122

空港建設問題がおこるなかで、「海は住民  
のもの」という意識をもつ

## (テ) ルースなコモンズ

- 持続性が偶発性ないしは副産物としてあらわれる資源利用 P.124

白保の海——外部者の利用に開かれた海(オープン・アクセス状態)

- 住民と海とのかかわり  
資源管理とは別の観点から検討する必要

# (テ) 多辺田による紹介

- 商品化されない地域自給のための資源管理  
「共的管理」というコモンズ

反対運動 行政の自然破壊に対抗する地  
域自立の運動としてとらえた

共的管理をなり立たせている住民相互の「共同の  
力」がどのように生まれてきているのか？

P. 125

# (テ)マイナー・サブシステムの提起

松井健

- いつも、集団にとって最重要とされている生業活動の陰にありながら、それでもなお脈々と受け継がれてきている副次的ですらないような生業活動

「きわめて身体的な、自然のなかに身体をおき身体を媒介として対象物との出会いを求める行為である」 P.130

# (テ)イノーの存在意義

- 農業を営みながら、イノーの地形を熟知し利用  
「女子供にやさしい海」

生態系 単一の魚種が優先することがなく、大量捕獲する特定の技術や道具が発達することもなかった P.130

必要に応じて通うだけ

海を利用して得られた経験は、個人の内面にとどまっている限り、住民としてのまとまりの意識を形成するにはいたらないこと。

# (テ) コモンズの意識化

- 地元とは 県は石垣  
住民は白保を主張

地域資源に利害をもつものを特定することの難しさ！  
(ルースなコモンズの特徴でもある)

- マイナー・サブシステムを公に認めさせる活動
  - 1) 住民と海との関わりを自ら認知(awareness building)
  - 2) 住民の総意・合意を形成  
「海は部落の命」を再確認 p.134



# (テ)生成するコモンズ

- 漁業権として制度化させるような厳格なシステムではない  
ルースなコモンズ, オープンアクセス的な資源利用
- 住民ひとりびとりのなかに蓄積された海とのかかわり  
空港問題を契機に部落の「公」意識が形成  
蓄積された経験を「住民の総意」としてまとめあげることに  
成功した
- コモンズ  
制度としてあるのではなく, 人々の集合の意識が形成され  
るプロセスをつうじて生成されてくるもの

# (テ) 演習問題

1) イノーの利用の特徴を、次の視点からまとめてみよ。

利用者	漁具・漁法	対象魚種
管理手法	外部者	利用者の意識
公的制度とのかかわり	コモンズとしての性格	

2) 沖縄ではイノーを利用したエコ・ツーリズム、環境学習が盛んになっている。HP等でイノーがどのような地域資源として外部者に伝えられているか、検討してみよう。

恩納村のリゾートホテル: プライ  
ベート・ビーチとして

